

佐賀県小学校教師における指導要録改訂 に関する意識調査

撫 尾 知 信

A Survey on the Opinions of Teachers, at Elementary Schools in Saga Prefecture, in regard to the Revision of the Cumulative Record

Tomonobu UTSUO

問題と目的

平成元年における学習指導要領の改訂に伴い、平成3年に小・中学校等の指導要録が改訂された。今回の改訂は、昭和55年の改訂以来11年振りの改訂である。

平成3年3月20日付の文部省通知文によると、改訂の趣旨は次の3点である。①新学習指導要領が目指す学力観に立った教育の実践に役立つようにすること。②児童生徒一人一人の可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つようにすること。③指導要録に記録する内容の精選や保存期間の短縮を行うとともに、指導要録の保存管理の方法等の整備を図ること。

以上の趣旨に基づき、さまざまな点で大幅な改訂がなされているが、主な変更点は次のようなものである。

まず、指導要録の編成について、学籍に関する記録と指導に関する記録を別業にすると

ともに、プライバシー保護の観点から、指導の記録の保存期間が従来の20年から5年間に短縮されている。

次に、「各教科の学習の記録」欄について、その構成が従来の「I 評定」、「II 観点別学習状況」、「III 所見」から、「I 観点別学習状況」、「II 評定」、「III 所見」の順になっており、観点別の絶対評価を行う「I 観点別学習状況」を基本とするように変更されている。また、新しい学力観として、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの育成を重視するために、「I 観点別学習状況」の観点の配列が、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の順となり、従来の順序と逆転されている。同時に、「I 観点別学習状況」の評価の方法についても、従来の「+ (十分達成したもの)」「空白 (おおむね達成したもの)」「- (達成が不十分なもの)」から、「A (十分満足できると判断されるもの)」「B (お

おむね満足できると判断されるもの)」「C(努力を要すると判断されるもの)」へと変更されている。さらに、総合的な相対評価(厳密には、絶対評価を加味した相対評価)を行う「II評定」についても、従来は小学校の低学年は3段階評価、小学校の中・高学年及び中学校は5段階評価であったが、今回の改訂で小学校の低学年は廃止し、小学校の中・高学年は3段階評価、中学校は従来通り5段階評価を行うように変更されている。

その他、「特別活動の記録」欄や「行動の記録(従来は行動及び性格の記録)」欄、また中学校における「進路指導の記録(従来は進路に関する記録)」欄等においても、いくつかの変更がなされている。

なお、新たに「指導上参考となる諸事項」欄が設けられ、その代わりに、「標準検査の記録」欄が廃止されたことも、大きな変更であるといえる。

以上のように、新しい学力の育成や個性を生かす教育を目指すという観点から、さらには、プライバシーの保護という観点から、さまざまな変更がなされているわけであるが、今回の指導要録改訂について、現場の教師たちはどのような意識や意見を持っているのだろうか。

本研究の目的は、佐賀県小学校教師における新指導要録に対する意識を調査することである。

方 法

(1) 調査対象及び調査手続き

佐賀県内の公立小学校26校に対し、各校10名ずつの教師による回答を、校長宛に郵送で

依頼した。調査対象校の選出に当たっては、できるだけ地域や学校規模に偏りがないように配慮した。

回答は無記名であるが、学校名、性別、役職(管理職・一般職)、年代(20代・30代・40代・50代)を記入してもらった。なお、各校10名の中には、管理職(校長または教頭)1名を加えてもらうよう依頼した。

回収できたのは22校(回収率84.6%)で、有効回答者数は196名であった。その内訳は、(男92名、女99名、性別不詳5名)、(管理職22名、一般職174名)、(20代60名、30代69名、40代33名、50代27名、年代不詳7名)であった。

(2) 調査内容

今回の改訂における下記の14の変更点に関する意識として、「非常に望ましい」から「非常に望ましくない」までの5段階で回答させた。各質問項目の内容は、次の通りである。

①「学籍の記録」と「指導の記録」が別業になり、「指導の記録」の保存期間が5年間に短縮されたこと。(編成と保存期間)

②「学籍の記録」において、保護者の「職業」と「児童との関係」を記入する欄が削除されたこと。(保護者情報の簡略化)

③「学籍の記録」において、「備考」の欄が削除され、「指導上参考となる諸事項」に統合されたこと。(学籍備考の削除)

④「各教科の学習の記録」の構成が、「I評定」「II観点別学習状況」「III所見」から「I観点別学習状況」「II評定」「III所見」に改められたこと。(学習の構成)

⑤「各教科の学習の記録」における「評定」が、低学年(1・2年生)で廃止されたこと。

(学習評定の低学年廃止)

⑥「各教科の学習の記録」における「評定」が、中・高学年(3～6年生)で5段階から3段階に改められたこと。(学習評定の段階変更)

⑦「各教科の学習の記録」における「観別学習状況」の観点の構成が、原則として「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現(または技能)」「知識・理解」の順序に改められたこと。(観点の順序)

⑧「各教科の学習の記録」における「観別学習状況」の評価の方法が、目標の達成状況による「+(十分達成したもの)」「空白(おおむね達成したもの)」「-(達成が不十分なもの)」の3段階から、目標の実現状況による「A(十分満足できると判断されるもの)」「B(おおむね満足できると判断されるもの)」「C(努力を要すると判断されるもの)」の3段階に改められたこと。(観点の評価方法)

⑨新設された生活科において、「生活への関心・意欲・態度」「活動や体験についての思考・表現」「身近な環境や自分についての気付き」の各観点について評価するようになったこと。(生活科の評価)

⑩「特別活動の記録」の構成が、内容ごとに○をつけて評価する「I活動の状況」と文章で記述する「II事実及び所見」に分けられたこと。(特活の構成)

⑪「行動及び性格の記録」の名称が「行動の記録」に改められ、またその構成が「I評定」「II所見」から「I行動の状況」「II所見」に改められたこと。(行動の構成)

⑫「行動の記録」における「行動の状況(以前は評定)」の評価の方法が、「+(優れたも

の)」「空白(特徴を認めがたいもの)」「-(特に指導を要するもの)」の3段階から、項目ごとの趣旨に照らして、十分満足できるものについてのみ○をつけるように改められたこと。(行動の評価方法)

⑬「指導上参考となる諸事項」が新設されたこと。(諸事項の新設)

⑭「標準検査の記録」が削除され、「指導上参考となる諸事項」に記入するようになったこと。(標準検査の削除)

(3) 調査時期

平成4年7月上旬に郵送で回答を依頼し、同年8月中には郵送による回収がほぼ完了した。

結果と考察

(1) 各変更点に対する意識

Table 1～Table 14は、佐賀県の小学校教師が全体として、今回の改訂における各変更点に対しどの程度望ましいと思っているのかをまとめたものである。また、Table 15～Table 28は、5段階評定において「非常に望ましい」と「どちらかという望ましい」を好意的評価とし、「非常に望ましくない」と「どちらかという望ましくない」を非好意的評価とした上で、どちらの評価をしている教師が多いかを、各変更点ごとに比較したものである。

まず、Table 15～Table 28までについて、「どちらともいえない」を除いた上で、好意的評価と非好意的評価が同数であることを帰無仮説とするカイ二乗検定を行った結果、項目⑩(特活の構成)のみが1%水準である以外は、すべての項目について好意的評価の方

が0.1%水準で有意に多かった。したがって、今回の改訂は、少なくとも佐賀県の小学校教師からは全体的に好意的に評価されているといえる。その中でも、特に好意的評価が多かった項目は、項目②(保護者情報の簡略化)、項目③(学籍備考の削除)、項目④(学習の構成)、項目⑤(学習評定の低学年廃止)、項目⑫(行動の評価方法)などであった。

次に、Table 1~Table 14のうち、「非常に望ましい」と回答した者が多かった項目は、項目②(保護者情報の簡略化)、項目⑤(学習

評定の低学年廃止)、項目⑥(学習評定の段階変更)、項目⑦(観点の順序)、項目⑫(行動の評価方法)などであった。

これらのことから、新学力としての意欲や思考力・判断力・表現力の重視、総合的な相対評価を行う「評定」よりも観点別の絶対評価を行う「観点別学習状況」の重視、行動に関する長所のみ記述、家庭のプライバシーの保護など、新しい評価観は教育現場から好意をもって受け入れられているといえるのではないだろうか。

A:非常に望ましい B:どちらかという望ましい
C:どちらともいえない D:どちらかという望ましくない
E:非常に望ましくない

Table 1 各変更点に対する意識(項目①)

A	B	C	D	E	計
34 (17.8)	71 (37.2)	62 (32.5)	19 (9.9)	5 (2.6)	191 (100.0)

Table 2 各変更点に対する意識(項目②)

A	B	C	D	E	計
64 (32.8)	77 (39.5)	40 (20.5)	14 (7.2)	0 (0.0)	195 (100.0)

Table 3 各変更点に対する意識(項目③)

A	B	C	D	E	計
24 (12.6)	75 (39.3)	85 (44.5)	6 (3.1)	1 (0.5)	191 (100.0)

Table 4 各変更点に対する意識(項目④)

A	B	C	D	E	計
31 (16.1)	62 (32.1)	90 (46.6)	8 (4.1)	2 (1.0)	193 (100.0)

Table 5 各変更点に対する意識(項目⑤)

A	B	C	D	E	計
84 (43.1)	65 (33.3)	36 (18.5)	10 (5.1)	0 (0.0)	195 (100.0)

Table 6 各変更点に対する意識(項目⑥)

A	B	C	D	E	計
44 (22.7)	74 (38.1)	45 (23.2)	27 (13.9)	4 (2.1)	194 (100.0)

Table 7 各変更点に対する意識(項目⑦)

A	B	C	D	E	計
42 (21.5)	68 (34.9)	66 (33.8)	15 (7.7)	4 (2.1)	195 (100.0)

Table 8 各変更点に対する意識(項目⑧)

A	B	C	D	E	計
21 (10.7)	56 (28.6)	84 (42.9)	30 (15.3)	5 (2.6)	196 (100.0)

Table 9 各変更点に対する意識 (項目⑨)

A	B	C	D	E	計
19 (9.8)	65 (33.5)	68 (35.1)	34 (17.5)	8 (4.1)	194 (100.0)

Table 10 各変更点に対する意識 (項目⑩)

A	B	C	D	E	計
17 (8.9)	60 (31.6)	65 (34.2)	31 (16.3)	17 (8.9)	190 (100.0)

Table 11 各変更点に対する意識 (項目⑪)

A	B	C	D	E	計
26 (13.8)	76 (40.2)	66 (34.9)	16 (8.5)	5 (2.6)	189 (100.0)

Table 12 各変更点に対する意識 (項目⑫)

A	B	C	D	E	計
45 (23.3)	86 (44.6)	48 (24.9)	11 (5.7)	3 (1.6)	193 (100.0)

Table 13 各変更点に対する意識 (項目⑬)

A	B	C	D	E	計
23 (11.9)	72 (37.3)	65 (33.7)	22 (11.4)	11 (5.7)	193 (100.0)

Table 14 各変更点に対する意識 (項目⑭)

A	B	C	D	E	計
16 (8.2)	63 (32.1)	103 (52.6)	11 (5.6)	3 (1.5)	196 (100.0)

好意的: 「非常に望ましい」 「どちらかという望ましい」
 非好意的: 「非常に望ましくない」 「どちらかという望ましくない」

Table 15 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目①)

	好意的	非好意的	計
期待度数	64.5(50.0)	64.5(50.0)	129(100.0)
観測度数	105(81.4)	24(18.6)	129(100.0)

$$X^2=50.86(df=1) \quad p<.001$$

Table 19 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑤)

	好意的	非好意的	計
期待度数	79.5(50.0)	79.5(50.0)	159(100.0)
観測度数	149(93.7)	10(6.3)	159(100.0)

$$X^2=121.52(df=1) \quad p<.001$$

Table 16 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目②)

	好意的	非好意的	計
期待度数	77.5(50.0)	77.5(50.0)	155(100.0)
観測度数	141(91.0)	14(9.0)	155(100.0)

$$X^2=104.06(df=1) \quad p<.001$$

Table 20 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑥)

	好意的	非好意的	計
期待度数	74.5(50.0)	74.5(50.0)	149(100.0)
観測度数	118(79.2)	31(20.8)	149(100.0)

$$X^2=50.80(df=1) \quad p<.001$$

Table 17 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目③)

	好意的	非好意的	計
期待度数	53(50.0)	53(50.0)	106(100.0)
観測度数	99(93.4)	7(6.6)	106(100.0)

$$X^2=79.85(df=1) \quad p<.001$$

Table 21 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑦)

	好意的	非好意的	計
期待度数	64.5(50.0)	64.5(50.0)	129(100.0)
観測度数	110(85.3)	19(14.7)	129(100.0)

$$X^2=64.19(df=1) \quad p<.001$$

Table 18 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目④)

	好意的	非好意的	計
期待度数	51.5(50.0)	51.5(50.0)	103(100.0)
観測度数	93(90.3)	10(9.7)	103(100.0)

$$X^2=66.88(df=1) \quad p<.001$$

Table 22 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑧)

	好意的	非好意的	計
期待度数	56(50.0)	56(50.0)	112(100.0)
観測度数	77(68.8)	35(31.2)	112(100.0)

$$X^2=15.75(df=1) \quad p<.001$$

Table 23 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑨)

	好意的	非好意的	計
期待度数	63(50.0)	63(50.0)	126(100.0)
観測度数	84(66.7)	42(33.3)	126(100.0)

$$X^2=14.00(df=1) \quad p<.001$$

Table 24 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑩)

	好意的	非好意的	計
期待度数	62.5(50.0)	62.5(50.0)	125(100.0)
観測度数	77(61.6)	48(38.4)	125(100.0)

$$X^2=6.73(df=1) \quad p<.01$$

Table 25 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑪)

	好意的	非好意的	計
期待度数	61.5(50.0)	61.5(50.0)	123(100.0)
観測度数	102(82.9)	21(17.1)	123(100.0)

$$X^2=53.34(df=1) \quad p<.001$$

(2) 性別による意識の違い

Table 29~Table 42 は、性別による意識の違いをみるために、男性教師と女性教師の回答を各変更点ごとにまとめたものである。

カイ二乗検定の結果、有意な性差がみられた項目はなかった。ただ、項目③(学籍備考の削除)と項目⑩(特活の構成)については10%水準の傾向差があり、項目③については女性教師の方が「非常に望ましい」と回答し

Table 26 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑫)

	好意的	非好意的	計
期待度数	72.5(50.0)	72.5(50.0)	145(100.0)
観測度数	131(90.3)	14(9.7)	145(100.0)

$$X^2=94.41(df=1) \quad p<.001$$

Table 27 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑬)

	好意的	非好意的	計
期待度数	64(50.0)	64(50.0)	128(100.0)
観測度数	95(74.2)	33(25.8)	128(100.0)

$$X^2=30.03(df=1) \quad p<.001$$

Table 28 好意的評価と非好意的評価の期待度数と観測度数 (項目⑭)

	好意的	非好意的	計
期待度数	46.5(50.0)	46.5(50.0)	93(100.0)
観測度数	79(84.9)	14(15.1)	93(100.0)

$$X^2=45.43(df=1) \quad p<.001$$

た者がやや多く、項目⑩については女性教師の方が「非常に望ましくない」と回答した者が多かった。どちらかという、女性教師の方に簡略化を好み、煩雑化を嫌う傾向がありそうだとしたら言い過ぎであろうか。

しかし、いずれにしても、今回の改訂に対して性差はほとんど見られないといってい

- A:非常に望ましい B:どちらかという望ましい
C:どちらともいえない D:どちらかと言うと望ましくない
E:非常に望ましくない

Table 29 性別による意識の違い (項目①)

	A	B	C	D	E	計
男性	19(20.9)	35(38.5)	25(27.5)	9(9.9)	3(3.3)	91(100.0)
女性	13(13.5)	35(36.5)	36(37.5)	11(11.5)	1(1.0)	96(100.0)
計	32(17.1)	70(37.4)	61(32.6)	20(10.7)	4(2.1)	187(100.0)

$$X^2=4.18 \quad (df=4) \quad n.s.$$

Table 30 性別による意識の違い (項目②)

	A	B	C	D	E	計
男性	30(32.6)	41(44.6)	14(15.2)	7(7.6)	0(0.0)	92(100.0)
女性	30(30.6)	36(36.7)	25(25.5)	7(7.1)	0(0.0)	98(100.0)
計	60(31.6)	77(40.5)	39(20.5)	14(7.4)	0(0.0)	190(100.0)

$$X^2=4.18 \quad (df=4) \quad n.s.$$

Table 31 性別による意識の違い(項目③)

	A	B	C	D	E	計
男性	8(8.8)	44(48.4)	38(41.8)	1(1.1)	0(0.0)	91(100.0)
女性	16(16.8)	31(32.6)	42(44.2)	5(5.3)	1(1.1)	95(100.0)
計	24(12.9)	75(40.3)	80(43.0)	6(3.2)	1(0.5)	186(100.0)

$$X^2=8.70 \text{ (df=4) } p<.10$$

Table 37 性別による意識の違い(項目⑨)

	A	B	C	D	E	計
男性	12(13.3)	31(34.4)	31(34.4)	14(15.6)	2(2.2)	90(100.0)
女性	7(7.1)	33(33.3)	35(35.4)	19(19.2)	5(5.1)	99(100.0)
計	19(10.1)	64(33.9)	66(34.9)	33(17.5)	7(3.7)	189(100.0)

$$X^2=4.22 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 32 性別による意識の違い(項目④)

	A	B	C	D	E	計
男性	19(20.7)	29(31.5)	41(44.6)	3(3.3)	0(0.0)	92(100.0)
女性	12(12.5)	32(33.3)	45(46.9)	5(5.2)	2(2.1)	96(100.0)
計	31(16.5)	61(32.4)	86(45.7)	8(4.3)	2(1.1)	188(100.0)

$$X^2=4.33 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 38 性別による意識の違い(項目⑩)

	A	B	C	D	E	計
男性	9(10.1)	32(36.0)	33(37.1)	12(13.5)	3(3.4)	89(100.0)
女性	8(8.3)	27(28.1)	29(30.2)	19(19.8)	13(13.5)	96(100.0)
計	17(9.2)	59(31.9)	62(33.5)	31(16.8)	16(8.6)	185(100.0)

$$X^2=8.32 \text{ (df=4) } p<.10$$

Table 33 性別による意識の違い(項目⑤)

	A	B	C	D	E	計
男性	43(47.3)	33(36.3)	12(13.2)	3(3.3)	0(0.0)	91(100.0)
女性	38(38.4)	32(32.3)	22(22.2)	7(7.1)	0(0.0)	99(100.0)
計	81(42.6)	65(34.2)	34(17.9)	10(5.3)	0(0.0)	190(100.0)

$$X^2=4.54 \text{ (df=3) n.s.}$$

Table 39 性別による意識の違い(項目⑪)

	A	B	C	D	E	計
男性	12(14.0)	38(44.2)	28(32.6)	6(7.0)	2(2.3)	86(100.0)
女性	14(14.3)	36(36.7)	35(35.7)	10(10.2)	3(3.1)	98(100.0)
計	26(14.1)	74(40.2)	63(34.2)	16(8.7)	5(2.7)	184(100.0)

$$X^2=1.41 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 34 性別による意識の違い(項目⑥)

	A	B	C	D	E	計
男性	26(28.3)	36(39.1)	17(18.5)	11(12.0)	2(2.2)	92(100.0)
女性	17(17.5)	37(38.1)	25(25.8)	16(16.5)	2(2.1)	97(100.0)
計	43(22.8)	73(38.6)	42(22.2)	27(14.3)	4(2.1)	189(100.0)

$$X^2=4.22 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 40 性別による意識の違い(項目⑫)

	A	B	C	D	E	計
男性	21(23.1)	43(47.3)	24(26.4)	3(3.3)	0(0.0)	91(100.0)
女性	23(23.7)	42(43.3)	21(21.7)	8(8.3)	3(3.1)	97(100.0)
計	44(23.4)	85(45.2)	45(23.9)	11(5.9)	3(1.6)	188(100.0)

$$X^2=5.39 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 35 性別による意識の違い(項目⑦)

	A	B	C	D	E	計
男性	22(23.9)	32(34.8)	29(31.5)	7(7.6)	2(2.2)	92(100.0)
女性	19(19.4)	34(34.7)	35(35.7)	8(8.2)	2(2.0)	98(100.0)
計	41(21.6)	66(34.7)	64(33.7)	15(7.9)	4(2.1)	190(100.0)

$$X^2=4.22 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 41 性別による意識の違い(項目⑬)

	A	B	C	D	E	計
男性	13(14.6)	38(42.7)	26(29.2)	10(11.2)	2(2.2)	89(100.0)
女性	10(10.1)	34(34.3)	37(37.4)	11(11.1)	7(7.1)	99(100.0)
計	23(12.2)	72(38.3)	63(33.5)	21(11.2)	9(4.8)	188(100.0)

$$X^2=4.84 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 36 性別による意識の違い(項目⑧)

	A	B	C	D	E	計
男性	13(14.1)	32(34.8)	34(37.0)	10(10.9)	3(3.3)	92(100.0)
女性	8(8.2)	24(24.5)	47(48.0)	18(18.4)	1(1.0)	98(100.0)
計	21(11.1)	56(29.5)	81(42.6)	28(14.7)	4(2.1)	190(100.0)

$$X^2=7.52 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 42 性別による意識の違い(項目⑭)

	A	B	C	D	E	計
男性	6(6.5)	33(35.9)	46(50.0)	5(5.4)	2(2.2)	92(100.0)
女性	10(10.1)	29(29.3)	54(54.6)	6(6.1)	0(0.0)	99(100.0)
計	16(8.4)	62(32.5)	100(52.4)	11(5.8)	2(1.0)	191(100.0)

$$X^2=3.74 \text{ (df=4) n.s.}$$

(3) 役職による意識の違い

Table 43~Table 56 は、役職による意識の違いをみるために、管理職(校長または教頭)と一般教師の回答を各変更点ごとにまとめたものである。

カイ二乗検定の結果、項目①(編成と保存期間)、項目③(学籍備考の削除)、項目④(学習の構成)、項目⑧(観点の評価方法)、項目⑨(生活科の評価)、項目⑩(特活の構成)、項目⑪(行動の構成)、項目⑬(諸事項の新設)において1%水準の有意差があり、これらはいずれも管理職の方が改訂を好意的に受けと

めているという結果であった。

有意差があった項目のほとんどは、実際に指導要録の記載を行う一般教師の負担を増加させるような変更点に関わるものである。したがって、管理職と一般教師の双方とも改訂の趣旨は理解したとしても、実際の実務に携わる者とそうでない者との間に差が出てきたのであろう。

いずれにしても、14項目中8項目に有意差があったことから、役職による意識の違いははっきり存在するといえる。

- A:非常に望ましい B:どちらかという望ましい
C:どちらともいえない D:どちらかという望ましくない
E:非常に望ましくない

Table 43 役職による意識の違い(項目①)

	A	B	C	D	E	計
管理	9(40.9)	12(54.5)	0(0.0)	1(4.6)	0(0.0)	22(100.0)
一般	25(14.8)	59(34.9)	62(36.7)	19(11.2)	4(2.4)	169(100.0)
計	34(17.8)	71(37.2)	62(32.5)	20(10.5)	4(2.1)	191(100.0)

$$X^2=18.90 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 44 役職による意識の違い(項目②)

	A	B	C	D	E	計
管理	7(31.8)	7(31.8)	5(22.7)	3(13.6)	0(0.0)	22(100.0)
一般	57(32.9)	70(40.5)	35(20.2)	11(6.4)	0(0.0)	173(100.0)
計	64(32.8)	77(39.5)	40(20.5)	14(7.2)	0(0.0)	195(100.0)

$$X^2=1.88 \text{ (df=3) n.s.}$$

Table 45 役職による意識の違い(項目③)

	A	B	C	D	E	計
管理	4(18.2)	17(77.3)	1(4.5)	0(0.0)	0(0.0)	22(100.0)
一般	20(11.8)	58(34.3)	84(49.7)	6(3.6)	1(0.6)	169(100.0)
計	24(12.6)	75(39.3)	85(44.5)	6(3.1)	1(0.5)	191(100.0)

$$X^2=19.6 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 46 役職による意識の違い(項目④)

	A	B	C	D	E	計
管理	10(45.5)	7(31.8)	5(22.7)	0(0.0)	0(0.0)	22(100.0)
一般	21(12.3)	55(32.2)	85(49.7)	8(4.7)	2(1.2)	171(100.0)
計	31(16.1)	62(32.1)	90(46.6)	8(4.1)	2(1.0)	193(100.0)

$$X^2=17.69 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 47 役職による意識の違い(項目⑤)

	A	B	C	D	E	計
管理	10(45.5)	9(40.9)	3(13.6)	0(0.0)	0(0.0)	22(100.0)
一般	74(42.8)	56(32.4)	33(19.1)	10(5.8)	0(0.0)	173(100.0)
計	84(43.1)	65(33.3)	36(18.5)	10(5.1)	0(0.0)	195(100.0)

$$X^2=2.04 \text{ (df=3) n.s.}$$

Table 48 役職による意識の違い(項目⑥)

	A	B	C	D	E	計
管理	5(22.7)	8(36.4)	5(22.7)	3(13.6)	1(4.6)	22(100.0)
一般	39(22.7)	66(38.4)	40(23.3)	24(14.0)	3(1.7)	172(100.0)
計	44(22.7)	74(38.1)	45(23.2)	27(13.9)	4(2.1)	194(100.0)

$$X^2=0.77 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 49 役職による意識の違い(項目⑦)

	A	B	C	D	E	計
管理	7(31.8)	10(45.5)	4(18.2)	1(4.5)	0(0.0)	22(100.0)
一般	35(20.2)	58(33.5)	62(35.8)	14(8.1)	4(2.3)	173(100.0)
計	42(21.5)	68(34.9)	66(33.8)	15(7.7)	4(2.1)	195(100.0)

$$X^2=4.64 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 50 役職による意識の違い(項目⑧)

	A	B	C	D	E	計
管理	7(31.8)	11(50.0)	4(18.2)	0(0.0)	0(0.0)	22(100.0)
一般	14(8.0)	45(25.9)	80(46.0)	30(17.2)	5(2.9)	174(100.0)
計	21(10.7)	56(28.6)	84(42.9)	30(15.3)	5(2.6)	196(100.0)

$$X^2=22.23 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 51 役職による意識の違い(項目⑨)

	A	B	C	D	E	計
管理	8(36.4)	8(36.4)	3(13.6)	3(13.6)	0(0.0)	22(100.0)
一般	11(6.4)	57(33.1)	65(37.8)	31(18.0)	8(4.7)	172(100.0)
計	19(9.8)	65(33.5)	68(35.1)	34(17.5)	8(4.1)	194(100.0)

$$X^2=22.43 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 52 役職による意識の違い(項目⑩)

	A	B	C	D	E	計
管理	7(31.8)	10(45.5)	3(13.6)	2(9.1)	0(0.0)	22(100.0)
一般	10(6.0)	50(29.8)	62(36.9)	29(17.3)	17(10.1)	168(100.0)
計	17(8.9)	60(31.6)	65(34.2)	31(16.3)	17(8.9)	190(100.0)

$$X^2=22.16 \text{ (df=4) } p<.01$$

(4) 年代による意識の違い

Table 57~Table 70は、4つの年代(20代, 30代, 40代, 50代)による意識の違いをみるために、年代ごとに各変更点への回答をまとめたものである。

カイ二乗検定の結果、項目①(編成と保存期間)、項目③(学籍備考の削除)、項目④(学習の構成)、項目⑧(観点の評価方法)、項目⑨(生活科の評価)で1%水準、項目⑦(観点の順序)、項目⑩(行動の構成)で5%水準の有意差がみられ、また、項目②(保護者情報の簡略化)、項目⑬(諸事項の新設)で10%水準の傾向差がみられた。これらは大体において、40代・50代教師の方が20代・30代教師

Table 53 役職による意識の違い(項目⑪)

	A	B	C	D	E	計
管理	8(38.1)	9(42.9)	4(19.0)	0(0.0)	0(0.0)	21(100.0)
一般	18(10.7)	67(39.9)	62(36.9)	16(9.5)	5(3.0)	168(100.0)
計	26(13.8)	76(40.2)	66(34.9)	16(8.5)	5(2.6)	189(100.0)

$$X^2=14.54 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 54 役職による意識の違い(項目⑫)

	A	B	C	D	E	計
管理	7(31.8)	12(54.6)	2(9.1)	1(4.5)	0(0.0)	22(100.0)
一般	38(22.2)	74(43.3)	46(26.9)	10(5.8)	3(1.8)	171(100.0)
計	45(23.3)	86(44.6)	48(24.9)	11(5.7)	3(1.6)	193(100.0)

$$X^2=4.26 \text{ (df=4) n.s.}$$

Table 55 役職による意識の違い(項目⑬)

	A	B	C	D	E	計
管理	7(31.8)	12(54.6)	2(9.1)	1(4.5)	0(0.0)	22(100.0)
一般	16(9.4)	60(35.1)	63(36.8)	21(12.3)	11(6.4)	171(100.0)
計	23(11.9)	72(37.3)	65(33.7)	22(11.4)	11(5.7)	193(100.0)

$$X^2=17.13 \text{ (df=4) } p<.01$$

Table 56 役職による意識の違い(項目⑭)

	A	B	C	D	E	計
管理	3(13.6)	6(27.3)	10(45.5)	2(9.1)	1(4.5)	22(100.0)
一般	13(7.5)	57(32.8)	93(53.4)	9(5.2)	2(1.1)	174(100.0)
計	16(8.2)	63(32.1)	103(52.6)	11(5.6)	3(1.5)	196(100.0)

$$X^2=3.34 \text{ (df=4) n.s.}$$

よりも改訂を好意的に受けとめているような結果であった。ただ、50代教師のほとんど(27人中22人)が管理職であるので、これらの結果に役職の影響が混入している可能性があるが、40代教師も20代・30代教師より好意的に受けとめている傾向があることから、やはり年代差はあると考えてよいものと思われる。

年代差をより詳しく見てみると、40代教師が最も好意的な者が多く、20代教師が最も好意的な者が少ないようである。これは、40代教師の場合、既に各学校の教務主任や研究主任クラスが含まれており、新しい評価観についても学習する機会が多いのに対し、20代教師の場合、教職経験が浅く、日常の授業実践

に迫られて、綿密な評価活動を行う余裕がないのではないかと推測される。

いずれにしても、役職と同様、年代差も存在するといつてよさそうである。

- A:非常に望ましい B:どちらかという望ましい
 C:どちらともいえない D:どちらかという望ましくない
 E:非常に望ましくない

Table 57 年代による意識の違い(項目①)

	A	B	C	D	E	計
20代	2(3.5)	20(34.5)	26(44.8)	10(17.2)	0(0.0)	58(100.0)
30代	11(16.4)	25(37.3)	25(37.3)	5(7.5)	1(1.5)	67(100.0)
40代	10(30.3)	9(27.3)	8(24.2)	3(9.1)	3(9.1)	33(100.0)
50代	9(33.3)	14(51.9)	2(7.4)	2(7.4)	0(0.0)	27(100.0)
計	32(17.3)	68(36.8)	61(33.0)	20(10.8)	4(2.2)	185(100.0)

$$X^2=37.84 \text{ (df=12) } p<.01$$

Table 61 年代による意識の違い(項目⑤)

	A	B	C	D	E	計
20代	20(33.9)	24(40.7)	12(20.3)	3(5.1)	0(0.0)	59(100.0)
30代	32(46.4)	20(28.9)	14(20.3)	3(4.3)	0(0.0)	69(100.0)
40代	18(54.5)	8(24.2)	4(12.1)	3(9.1)	0(0.0)	33(100.0)
50代	11(40.7)	12(44.4)	3(11.1)	1(3.7)	0(0.0)	27(100.0)
計	81(43.1)	64(34.0)	33(17.6)	10(5.3)	0(0.0)	188(100.0)

$$X^2=8.33 \text{ (df=9) n.s.}$$

Table 58 年代による意識の違い(項目②)

	A	B	C	D	E	計
20代	12(20.0)	33(55.0)	12(20.0)	3(5.0)	0(0.0)	60(100.0)
30代	24(34.8)	26(37.7)	13(18.8)	6(8.7)	0(0.0)	69(100.0)
40代	15(45.5)	7(21.2)	10(30.3)	1(3.0)	0(0.0)	33(100.0)
50代	9(33.3)	9(33.3)	5(18.5)	4(14.8)	0(0.0)	27(100.0)
計	60(31.7)	75(39.7)	40(21.2)	14(7.4)	0(0.0)	189(100.0)

$$X^2=16.59 \text{ (df=9) } p<.10$$

Table 62 年代による意識の違い(項目⑥)

	A	B	C	D	E	計
20代	9(16.1)	18(32.1)	17(30.4)	10(17.9)	2(3.6)	56(100.0)
30代	14(20.0)	31(44.3)	16(22.9)	9(12.9)	0(0.0)	70(100.0)
40代	13(37.1)	13(37.1)	5(14.3)	4(11.4)	0(0.0)	35(100.0)
50代	7(25.9)	9(33.3)	6(22.2)	3(11.1)	2(7.4)	27(100.0)
計	43(22.9)	71(37.8)	44(23.4)	26(13.8)	4(2.1)	188(100.0)

$$X^2=15.75 \text{ (df=12) n.s.}$$

Table 59 年代による意識の違い(項目③)

	A	B	C	D	E	計
20代	3(5.2)	15(25.9)	36(62.1)	3(5.2)	1(0.0)	58(100.0)
30代	8(11.9)	29(43.3)	29(43.3)	1(1.5)	0(0.0)	67(100.0)
40代	9(28.1)	10(31.3)	12(37.5)	1(3.1)	0(0.0)	32(100.0)
50代	4(14.8)	19(70.4)	3(11.1)	1(3.7)	0(0.0)	27(100.0)
計	24(13.0)	73(39.7)	80(43.5)	6(3.3)	1(0.5)	184(100.0)

$$X^2=33.32 \text{ (df=12) } p<.01$$

Table 63 年代による意識の違い(項目⑦)

	A	B	C	D	E	計
20代	4(6.9)	26(43.3)	22(36.7)	6(10.0)	2(3.3)	60(100.0)
30代	16(23.5)	20(29.4)	24(35.3)	6(8.8)	2(2.9)	68(100.0)
40代	14(42.4)	10(30.3)	9(27.3)	0(0.0)	0(0.0)	33(100.0)
50代	6(22.2)	10(37.0)	8(29.6)	3(12.2)	0(0.0)	27(100.0)
計	40(21.3)	66(35.1)	63(33.5)	15(7.9)	4(2.1)	188(100.0)

$$X^2=21.14 \text{ (df=12) } p<.05$$

Table 60 年代による意識の違い(項目④)

	A	B	C	D	E	計
20代	5(5.2)	18(30.5)	33(55.9)	2(3.4)	1(1.7)	59(100.0)
30代	7(10.1)	18(26.1)	37(53.6)	6(8.7)	1(1.5)	69(100.0)
40代	12(36.4)	11(33.3)	10(30.3)	0(0.0)	0(0.0)	33(100.0)
50代	6(23.1)	13(50.0)	7(26.9)	0(0.0)	0(0.0)	26(100.0)
計	30(16.0)	60(32.1)	87(46.5)	8(4.3)	2(1.1)	187(100.0)

$$X^2=28.94 \text{ (df=12) } p<.01$$

Table 64 年代による意識の違い(項目⑧)

	A	B	C	D	E	計
20代	1(1.7)	11(18.3)	29(48.3)	18(30.0)	1(1.7)	60(100.0)
30代	7(10.1)	22(31.9)	29(42.1)	8(11.6)	3(4.3)	69(100.0)
40代	6(18.2)	10(30.3)	14(42.4)	2(6.1)	1(3.0)	33(100.0)
50代	5(18.5)	12(44.4)	9(33.3)	1(3.7)	0(0.0)	27(100.0)
計	19(10.1)	55(29.1)	81(42.9)	29(15.3)	5(2.6)	189(100.0)

$$X^2=27.45 \text{ (df=12) } p<.01$$

Table 65 年代による意識の違い(項目⑨)

	A	B	C	D	E	計
20代	0(0.0)	21(35.6)	20(33.9)	17(28.8)	1(1.7)	59(100.0)
30代	5(7.4)	24(35.3)	29(42.6)	7(10.3)	3(4.4)	68(100.0)
40代	6(18.2)	12(36.4)	9(27.3)	5(15.2)	1(3.0)	33(100.0)
50代	6(22.2)	8(29.6)	6(22.2)	4(14.8)	3(11.1)	27(100.0)
計	17(9.1)	65(34.8)	64(34.2)	33(17.6)	8(4.3)	187(100.0)

$$X^2=27.45 \text{ (df=12) } p<.01$$

Table 68 年代による意識の違い(項目⑩)

	A	B	C	D	E	計
20代	13(22.0)	21(35.6)	17(28.8)	7(11.9)	1(1.7)	59(100.0)
30代	14(20.6)	35(51.5)	16(23.5)	2(2.9)	1(1.5)	68(100.0)
40代	10(31.3)	11(34.4)	9(28.1)	2(6.2)	0(0.0)	32(100.0)
50代	8(29.6)	12(44.4)	4(14.8)	1(3.7)	2(7.4)	27(100.0)
計	45(24.2)	79(42.5)	46(24.7)	12(6.5)	4(2.2)	186(100.0)

$$X^2=14.26 \text{ (df=12) } n.s.$$

Table 66 年代による意識の違い(項目⑪)

	A	B	C	D	E	計
20代	3(5.2)	17(29.3)	20(34.5)	12(20.7)	6(10.3)	58(100.0)
30代	4(5.9)	19(28.4)	23(34.3)	14(20.9)	7(10.4)	67(100.0)
40代	6(19.4)	12(38.7)	7(22.6)	2(6.5)	4(12.9)	31(100.0)
50代	4(14.8)	11(40.7)	9(33.3)	3(11.1)	0(0.0)	27(100.0)
計	17(9.3)	59(32.2)	59(32.2)	31(16.9)	17(9.3)	183(100.0)

$$X^2=15.45 \text{ (df=12) } n.s.$$

Table 69 年代による意識の違い(項目⑫)

	A	B	C	D	E	計
20代	6(10.2)	21(35.6)	22(37.3)	7(11.9)	3(5.1)	59(100.0)
30代	3(4.4)	24(35.3)	31(45.6)	6(8.8)	4(5.9)	68(100.0)
40代	6(18.8)	14(43.7)	6(18.7)	5(15.6)	1(3.1)	32(100.0)
50代	7(25.9)	12(44.4)	4(14.8)	2(7.4)	2(7.4)	27(100.0)
計	22(11.8)	71(38.2)	63(33.9)	20(10.8)	10(5.4)	186(100.0)

$$X^2=19.78 \text{ (df=12) } p<.10$$

Table 67 年代による意識の違い(項目⑬)

	A	B	C	D	E	計
20代	5(8.5)	20(33.9)	26(44.1)	7(11.9)	1(1.7)	59(100.0)
30代	6(9.2)	30(46.2)	18(27.7)	8(12.3)	3(4.6)	65(100.0)
40代	10(31.2)	11(34.4)	9(28.1)	1(3.1)	1(3.1)	32(100.0)
50代	5(19.2)	14(53.9)	7(26.9)	0(0.0)	0(0.0)	26(100.0)
計	26(14.3)	75(41.2)	60(32.9)	16(8.8)	5(2.7)	182(100.0)

$$X^2=22.04 \text{ (df=12) } p<.05$$

Table 70 年代による意識の違い(項目⑭)

	A	B	C	D	E	計
20代	4(6.7)	13(21.7)	40(66.7)	3(5.0)	0(0.0)	60(100.0)
30代	4(5.8)	27(39.1)	32(46.4)	5(7.2)	1(1.4)	69(100.0)
40代	4(12.1)	15(45.5)	14(42.4)	0(0.0)	0(0.0)	33(100.0)
50代	3(11.1)	8(29.6)	12(44.4)	3(11.1)	1(3.7)	27(100.0)
計	15(7.9)	63(33.3)	98(51.9)	11(5.8)	2(1.1)	189(100.0)

$$X^2=16.49 \text{ (df=12) } n.s.$$

討 論

本研究では、佐賀県の小学校教師を対象に、今回の指導要録改訂に対する意識を調査したが、全般的に好意的に受けとめられていることが明らかになった。また、男性教師と女性教師の間に意識の違いはほとんどみられないものの、役職や年代による意識の違いはかなり大きいことも明らかとなった。

以上のように、今回の指導要録改訂はおおむね支持されているようであるが、実施するに当たっては、問題点も少なくないようである。

第1に、新しい学力観により、関心・意欲・

態度や思考力・判断力・表現力などが重視されるようになったが、実際にはそれらの評価は、知識・理解・技能などの基礎学力に比べると極めて困難であることが挙げられる。よほど日常的な観察などによりデータの蓄積を行わない限り、主観的・恣意的な評価に陥ってしまう恐れが十分にあるわけである。しかしながら、難しいからやらないのではなく、難しくてもやる必要があるから今回の指導要録改訂でも重視されているのだということを、すべての教師が認識する必要があるのである。

第2に、一人一人の長所を最大限に伸ばすという趣旨から、文章記述をする場合には、

できるだけ短所は記述せず、長所のみを記述することになったが、このことに関しては不安視する教師も少なくないと思われる。すなわち、短所も含めて初めてトータルな人格や個性の理解が可能であり、そうでなくては適切な指導はできないのではないかと懸念である。このことは、ある意味では真実であろう。しかしながら、短所も含めて全人的に理解するということと、短所まで指導要録という公的な表簿に記載することとは別問題である。子どもの短所は、いわば子どものプライバシーに関することからである。それを保存期間が短縮されたとはいえ、5年間も保存する必要はないのである。もし、どうしても次の担任に伝える必要を感じた場合は、口頭もしくは私信で十分なのである。なお、蛇足ながら、指導要録に短所を記載しないようになれば、近い将来に予想される指導要録の全面開示に対しても、何ら恐れることはないであろう。

第3に、前にも述べた通り、今回の指導要録改訂は、いろんな意味で現場教師の負担の増加を招くものである。たとえば、「観点別学習状況」では全員にABCのいずれかを必ず記入しなければならなくなったし、「指導上参考となる諸事項」のように文章記述を要する欄は増えたし、しかも、各欄で文章記述をする場合には、できるだけ各人の長所を見つけて記述するようになったのである。これらはいずれも、日常的なデータの蓄積がなければ、信頼性や妥当性の保証された責任ある評価はできず、必然的に、教師の負担を増加させるであろう。ただ、確かに教師の負担は重くなるであろうが、個性を生かす教育を実現する

ため、あるいは、指導要録の指導の機能を強化するためには、必要不可欠なことなのである。

以上の他にも、実際上の問題点は数多いと思われるが、何はともあれ、現場の先生方の主体的な自覚とより一層の努力を期待するのみである。

最後になるが、研究上の今後の課題として、第1に、指導要録改訂によって、小学校の通知表にどのような変化がみられるか、第2に、中学校の教師が今回の指導要録改訂に対してどのような意識をもっているか、第3に、中学校の通知表にどのような変化がみられるか、などを明らかにするために、近いうちに調査を行いたいと考えているところである。

〈付記〉本研究を進めるにあたって、集計その他で本学卒業生の長尾俊哉君にお世話になった。記して謝意を表したい。

また、本研究の一部は、日本教育心理学会第35回大会で発表した。

(1993年8月25日受付)